

自公連立が破たん

裏金・自民党をおいづめ 新しい政治しめす 「しんぶん赤旗」



発行危機の打開へ、
ご支援をお願いします

日頃のご支援、ご協力に、心から感謝申し上げます。

自公体制が崩壊し、政治の新しい局面が生まれています。悪政を共に推進してきた公明党でさえ連立を維持できないほど自民党の腐敗・劣化がすすみ、高市早苗・新総裁選出で、破たんが露わになりました。私たちは、日本の政治の歴史的岐路にあたり、自民党政治をおわらせるため「新しい国民的・民主的共同」をよびかけ、全力をあげています。希望ある新しい政治にむけ、力を合わせましょう。

感謝 7億3千万円が寄せられました

「政治とカネ」問題で公明党が連立を離脱しましたが、裏金問題をスクープ、「政治とカネ」を徹底追及してきたのは「しんぶん赤旗」です。安倍政権の政治の私物化を暴いた「桜を見る会」スクープ、菅政権の違法な学術会議人事介入問題スクープ、岸田政権、石破政権で「パーティー券による裏金づくり」の連続スクープ。4人の首相の退陣、自公体制崩壊に追い込む力を発揮しています。

「赤旗」は、「闇夜を照らす灯台」です。しかし、読者数の後退、諸経費の増大のため「発行の危機」に直面しています。「発行の危機」を打開するために、1月に、読者拡大への協力と、10億円「赤旗」支援募金をお願いしました。支援募金は、10月初めまでに7億3千万円が寄せられました。心から感謝します。

100万読者、10億円募金達成へ

私たちは、読者を増やす努力を懸命に続けてきましたが、日刊紙・日曜版とも1月時点より後退しています。党勢を前進させるため、「質量ともに強大な党をつくる集中期間」にとりくみ、読者拡大では、日刊紙1万人、日曜版「紙」で2.7万人、電子版で3万人を増やす目標です。併せて、目標まであと2億7千万円まで迫った10億円募金の達成をめざしています。「赤旗」の発行を守るために、ぜひお力をお貸しください。よろしく申し上げます。

2025年10月 日本共産党委員長 田村智子

1 読者を増やすため 声かけや紹介を

お知り合いの方に「読んでみない?」と、「赤旗」をすすめてください。読んでくれそうな人を、議員や党員にご紹介ください。

日曜版電子版がスタート LINE友だちに広げてください

- 「日曜版電子版」のすすめたい記事をお友だちにシェアしてください
- 「日曜版電子版」推し動画やPR素材をSNSやメールでカクサンしてください
- お知り合いに、申し込み欄のQRコードやURLを送り、「登録して」とよびかけてください



2 10億円募金 目標達成にお力添えを

物価高騰による経費増、読者減で、日刊紙はいま年10数億円の赤字です。支援募金が支えです。SNSも使い、お知り合いに広くよびかけてください。

募金先

郵便振替

【口座番号】00170-7-98422
【加入者名】日本共産党中央委員会
通信欄に「赤旗募金」と記入のうえ、住所、氏名、職業をお書きください。

クレジットカード

こちらからアクセスしてください。

事務所・党員

最寄りの党事務所もしくはお知り合いの党員にお渡しください。



しんぶん赤旗をご購読ください
日刊●月3,497円 日曜版●月990円

「紙」の新聞
こちらから



電子版(日刊・日曜版)
こちらから



日本共産党



メディア総合研究所所長
谷岡理香さん

「桜を見る会」、自民党の裏金問題などの取材力には目を見張るものがあります。大手メディアに比べて、記者が潤沢にいるわけではないだろうに。人数ではなく記者の質の問題なのだと思う次第です。記者は市民の側にいなければなりません。「赤旗」にはその姿勢があります。



文芸評論家
斎藤美奈子さん

SNSやネットメディアが席卷する時代。新聞は「オールドメディア」と揶揄（やゆ）する人もいますが、フェイクニュースやデマが飛びかう今だからこそ、事実を真摯に追うジャーナリズムの底力が求められている。「赤旗」の底力にますます期待しています。

わたしと「しんぶん赤旗」

だから注目
期待します



元公明党副委員長
二見伸明さん

日本の政党で97年間も機関紙を発行しているのは共産党だけ。政治状況がメチャクチャな時代だからこそ、まともな理念や政策を掲げる政党が必要です。自己宣伝の機関紙をもつ政党はあるけど、世の中の出来事をきちんと報道しているのは「しんぶん赤旗」だけだと断言できます。



俳優
富士真奈美さん

社会の木鐸（ぼくたく）、その正義を貫く姿勢と共に、エンターテイメント、小説、法律相談、医事、日本の自然、人物紹介、漫画と、読みでがあり、楽しめる。週刊誌が1冊500円の時代に、日曜版は1カ月1000円足らず。1部250円。その「やせ我慢」に泣けてしまいます。



元外務省国際情報局長
孫崎 享さん

報道の自主性が大きく崩れる中で「赤旗」は、裏金問題をはじめ自主的な調査報道で政治のゆがみをあぶりだし、成果をあげています。いつの時代にもまして、役割が大きくなっています。民主主義を支える自由な言論空間を維持するためにも「赤旗」を守っていただきたい。

権力監視の重要な役割

「赤旗」に「報道の自由賞」
(日本外国特派員協会)

「民主主義における、ウォッチドッグ・ジャーナリズム（権力監視）の重要な役割を証明するもの」



「報道の自由賞」を受ける小木曾陽司・赤旗編集局長(中央)、三浦誠・社会部長(右)=5月30日。

多くの人の手で支えられている「赤旗」

「紙」と「電子版」双方での前進が不可欠です

毎日、毎週の「しんぶん赤旗」は、世界5カ国の特派員を含む約300人の記者と全国の通信員による取材・編集作業によって、作られています。

全国、6つの工場で印刷され、200余の輸送コースを通過して、約2千数百カ所の出張所・ポストに届けられます。輸送トラックの走行距離は約4万3千キロ。地球一周以上に相当します。

そして、約9万人の党员、党支持者の皆さんの手で読者に配達され、集金がされています。

発行体制を維持し、「赤旗」を通じ

て国民との信頼と連帯の絆を強める努力が、日本共産党の屋台骨を支えています。

電子版は、ネットを通じて届けますが、発行は、「紙」の発行体制が土台になっています。「紙面データ」を作成する編集局を支えているのは「赤旗」の事業全体です。「紙」の発行体制が崩れては、電子版の発行もできません。「紙」と「電子版」を、それぞれの特徴を生かし、双方の前進をかつとることが不可欠です。

募金と一緒に 寄せられた声

- 「赤旗」がなければどんな日本になっていくのか心配。
- 自公政権が国民から見放される時が到来。「赤旗」は絶大な貢献をしました。
- ぶれることなく闘っている共産党は希望。「赤旗」で勉強しています。ずっと存続しますように！